

自立 敬 愛



輝きと感動の南翔祭

▼9月19日(土)第45回南翔祭が開催されました。本年度は、テーマに「輝け!青春の1ページ」を掲げ、最高の南翔祭を創り上げようと生徒・教職員が一丸となって取り組んできました。▼南翔祭オープニングセレモニーでは、実行委員による楽しい寸劇と各学年代表から決意表明がありました。▼開祭式では生徒会長の平岡小春さんから、「例年通りたくさんの人に見てもらえないのは残念だけど、今できることをみんなで考え一生懸命に取り組んできた。大切な仲間とできることに感謝し、思い出に残る南翔祭としたい。」というあいさつがありました。



▼続いて行われた学芸の部、まずは1年生7名による演劇「手のひらの声たち」が披露されました。1年生のテーマは「福祉」。



耳の不自由な主人公が弁論大会に臨むお話で、途中、手話を取り入れての発表もあり、ハンディーキャップを抱えた人との関わり方や共生・共存の大切さを改めて考えさせられる内容でした。▼2年生の演劇は「恋は遠藤less(エンドレス)」。



新人看護師と医師とのコミカルなやり取りの中に、「働くことの大変さや素晴らしさ」が秘められた素晴らしい構成の演劇でした。特に、

先輩看護師でもある母からのメッセージは心にしみました。▼大トリは3年生の演劇「夏休み(戦後70年改訂バージョン)。舞台は戦争の足音が近づく昭和11年、夏休みの肝試しを通しての不思議な体験をもとに、平和の尊さやあたり



前の日常の大切さを訴えました。▼学芸の部に続いて体育の部が行われました。今年、3つの縦割り班対抗で、「長縄リレー」「グラウンドゴルフリレー」「オブスタクルリレー」の3つを行いました。中でも「長縄リレー」は、事前にかなり時間をかけて練習して



きただけに、生徒は真剣そのもの、白熱した戦いになりました。▼辺りが薄暗くなった6時から、閉祭式が行われました。一日を振り替えてのスライドを見た後、全員で今回のテーマソング「光る兆し」を歌いました。その後、各部門長と学級代表の感想発表があり、



フィナーレとして打ち上げ花火をみんなで堪能しました。▼今回の南翔祭を通して、困難な状況下にあっても、みんなで知恵を出し合い、今できることを一生懸命することの大切と素晴らしさを学んでくれたことと思います。